

平成29年度第4回徳島市行財政力強化市民会議

会議録（要約）

平成30年3月29日（木）午前10時から午前11時45分まで
徳島市役所 8階 庁議室

1 開会 (事務局)

委員の皆さま、本日はご多忙のところ、ご出席いただきありがとうございます。ごあいさつ。

ただいまから、平成29年度第4回徳島市行財政力強化市民会議を開会いたします。

本来ですと、会に先立ちまして、遠藤市長よりお礼を申し上げる予定でしたが、公務の都合により、急遽欠席となりましたことから、委員の皆さまへのお礼の言葉を、平山第一副市長より代読させていただきます。

(第一副市長)

それでは、私のほうから代読させていただきます。

本日はお忙しい中、行財政力強化市民会議にご出席いただきありがとうございます。

会議に先立ちまして、私から、委員の皆さまに一言お礼を申し上げます。

強化プラン期間中、委員の皆さまにはそれぞれのご立場や、これまでの経験を踏まえ、様々なご意見をいただき、強化プランを進めていく上で大いに参考とさせていただきました。

また、平成29年度におきましては、新たな行財政運営計画策定の年となりましたことから、委員の皆さまには、この1年間、これまで以上にご尽力をいただきました。

おかげをもちまして、本市の行財政改革の基本となる、「行財政改革推進プラン」を策定することができました。厚くお礼申し上げます。

今後は、行財政改革推進プランに基づきまして、しっかりと行財政改革に取り組みまして、持続可能な質の高い市民サービスを提供し、市民の皆さまが真の「豊かさ」を実感できる市政の実現を目指してまいります。

そして、私自らが先頭に立ち、全職員が一丸となって行財政改革に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも、市政運営へのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

委員の皆さま、この4年間本当にありがとうございました。

以上でございます。

(事務局)

それでは、会議に移ります。

会長、よろしくお願いいたします。

2 議題

(1) 徳島市行財政力強化プランの取組状況について

(会長)

おはようございます。早速ですが、次第に従いまして会議を進めてまいります。

まず、議題(1)の徳島市行財政力強化プランの取組状況につきまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

【資料1～3】により説明。

(会長)

資料1～3により議題(1)について説明いただきましたが、何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

(委員)

資料1の概要については、最終的に、職員数の面でも財政面でも計画どおりに実施できたという総括になると思うのですが、一方で何か課題もあるのではないかと思います。その課題を次のプランに取り組んでいく上で役立てていかなければならないと思うのですが、課題としてはどのようなものがあったのでしょうか。

(事務局)

平成 28 年度決算から基金の取崩しが始まっており、平成 29 年度決算はまだ出ていませんが、平成 28 年度から財政状況が悪化しております。これを建て直すという意味も込め、特に財政基盤の強化に主眼を置き、平成 30 年度から新たな計画のスタートをきりたいと思っています。これまでの 4 年間の計画を引き継ぐべきところは引き継ぐとともに、強化すべきところは強化して、財政状況の悪化に対応していきたいと考えております。

(委員)

資料 1 の 5 ページの地区自主防災連合組織の結成率が 96.6%とありますが、何地区のうち何地区が結成しているのでしょうか。

(事務局)

地区自主防災連合組織は、おおよそ行政区ごとに結成するもので、全 29 地区のうち、未結成は 1 地区となっております。

(会長)

結成率 96.6%というのは、非常にすばらしいと思いますが、一方でハード面の整備にも取り組んでほしいです。南海トラフ巨大地震の際に想定される、避難者数に対する指定避難所の収容人数を示す充足率が、四国 4 県の沿岸 14 市の中で徳島市が最も低く、22.9%だという新聞記事を見ました。こういう数字も踏まえて、積極的に取り組んでもらいたいです。

(委員)

まず、54 台の自動車の差押えについてですが、徳島市のような公共交通の少ないところで車を差押えられると、その人の生活はどうなるのかという声を多々聞きます。

次に、ネーミングライツ制度導入についてですが、博物館や美術館、動物園まで名前を売るのはいかがなものでしょうか。

次に、自主防災組織についてですが、自主防災の地域組織と言いつつも、基本的にはいわゆる町内会です。町内会の加入率を考えると、おそらく徳島市民の 4 分の 1 以下になるのではないかと思います。そういうことも考えながら自主防災組織の対策をしてほしいです。

また、徳島市、県の公務員の皆さんも地域の町内会に入っていないということが多々ありますので、そのあたりも地域のリーダーとしてしっかりやってほしいです。

(委員)

資料3の職員数について、一般行政が8人増えており、病院局が24人増えているのですが、なぜ増えたのでしょうか。普通なら減らなければならないと思うのですが。

(事務局)

一般行政については、国・県からの権限移譲や市民サービスも需要の増加により、業務量は増えています。そのような中で、職員を増やすべきところは増やし、減らすべきところは減らして、適正な配置に変えていくという方向で徳島市は取り組んでおります。増やした部分については、危機管理課と防災対策課の2課体制にしたことによる3人の増員や、新ホールの建設の対応のための増員等を行っています。アウトソーシングしたところはもちろん減らしており、政策に合わせて必要な人数を配置し、トータルで職員数を減らしている状況です。今後の新たなプランにつきましても、トータルで54人を減らしていく計画にしております。

病院局につきましては、事業管理者がおり、企業になりますので、単純に職員を増やしたら、経費は増えますが収入増になるということで、計画に基づき、医者等収入につながる部門を増やしています。

(委員)

資料1の11ページの「9組織力の強化」についてですが、平成30年度の人事異動で、女性の管理職等への登用状況はどうなっているのでしょうか。

(事務局)

先般の人事異動に伴い、課長以上の女性の数は20人となり、前年度より6人増えており、課長以上の職員の10.4%が女性です。係長以上の女性職員も増えており、約4分の1が女性です。

(委員)

地区自主防災連合組織の結成率が96.6%ということですが、避難訓練に参加している人数はどれぐらいでしょうか。私の周りでも、あまり参加している人はいません。もう少し小さい町内会単位で避難訓練を実施したらどうでしょうか。散歩感覚で避難場所を確認しに行くようなイベントを企画しても面白いと思います。

次に、ふるさと納税についてですが、返礼品に、阿波おどりの栈敷券と民泊のセットや、実家の親へのタクシー券、庭の剪定や掃除をしてもらう家事券な

ど、全国に無いものを追加してはどうでしょうか。

次に、新ホールについてですが、県外に観光にいくと、よく寺院の瓦を一つ1,000円で寄附できるようにしていますが、新ホールも壁のタイルを1枚500円程度で寄附できるようにしてはどうでしょうか。500円程度なら子どもでも参加できます。そして子どもたちが大きくなったときに、僕はこのホールのタイルを5枚寄附したと愛着を持てると思います。市民や市外、県外の人に協力してもらい、せっかく作るのですから、西日本一のホールにしてほしいです。

(事務局)

次のプランでは、戦略の中に、市民との共創を位置づけており、今後、あらゆる面で市民の皆さんと共に取り組んでいきたいと思っております。防災にしても、新ホールの建設にしてもそうですが、やはり我々行政だけではできないことが増えているのが実情ですので、新たな地域自治協働システム等も活用しまして、市民の皆さんの意見等を取り入れながら、進めていきたいと思っております。

(会長)

意見もたくさん出ましたので、次の議題に移ります。

議題(2)の徳島市行財政改革推進プラン 2018 について、説明をお願いします。

(事務局)

【資料4】により説明。

(会長)

ありがとうございました。

改革推進プランにつきましては、私たち市民会議の意見を踏まえて策定されたところでございます。

4月から、この改革推進プランに基づく取組みが始まりますが、期待することやアドバイスなどございましたら、お願いします。

まず、私から2点申し上げたいと思っております。

8ページの財政状況についてですが、非常に厳しい状況だと感じます。バックカスティングという考え方があります。平成33年度にこのような厳しい状況になるということなら、逆算してこの数年間で何をしなければならないかを考える必要があります。そうすると、聖域を取り払わないといけない、また市民の協力がなければ成果は上がりにくい、選択と集中もやらなければならないということ、ひしひしと感じています。

もう一つは、15ページの経常収支比率ですが、この類似団体平均との3.5%

の格差は本市にとって大きな課題だと思います。この3.5%をただ単に高すぎるというのではだめだと思います。人件費が高いのか、扶助費が高いのか、公債費が高いのか、それとも収益が少ないのか。きめ細かく分析してスピード感を持って改善を進めなければいけません。こういったことも踏まえて、委員の皆さん、ご意見をお願いします。

(委員)

時代認識をしっかり持つということと、近未来に向けて、現在から何をすべきかということを考えてもらいたいと思います。

この計画にも、2060年に人口を24万人超に維持したいとありますが、実際に、少子高齢社会と同時に人口減少社会の真っ只中にあるのは間違いありません。プランの中にも産業に対する影響や税収への影響が書かれていますが、何にも増して、労働力人口が減っていくというのが大きな課題です。労働力人口の減少をどう少なくするのか、もしくは、どうカバーするのか。現有労働力の定着を図るための施策に加えて、外国人労働者も含めた新たな労働力を考えていく時期にあるのではないのでしょうか。2008年に48万人だった外国人労働者が、2017年10月で128万人になっているという実態があります。これは、日本の労働力人口が減っていることと反比例して増えています。徳島市は、65歳以上の高齢者を活用しても、労働力人口が10万人をきる時代がそこにきている状況です。県都徳島市として誇りをもって対応できる施策を今から準備をしていただきたいです。明治維新の時に、10万人を超える都市の10番目が徳島市であったにも関わらず、当時10位以内の都市のうち、現在100万人都市になっていないのは、長崎市と徳島市だけです。長崎市は、地理的条件が要因だと言われていますが、徳島市は、明治以降、非常に優秀な人材が全国で活躍していますが、残念ながら県外で定着するということがありますので、それが今日の徳島市の現状につながっているのではないかとされています。徳島市に、優秀な人材が定着していく施策を作っていただきたいです。

(会長)

当時は、藍産業という非常に大きな産業を抱えていましたが、今はそのような産業がありません。非常に残念なことです。

また、幅広く労働力の問題を考えなければなりません。女性、高齢者、軽度の身体障害者、外国人、新卒者等まだまだ考えていく余地があると思います。

(委員)

Re：バース・プログラムということで、様々な取組みを書いています、

これを実際にやる時は、もう少し具体的な計画にしないといけないと思います。その中で、メインの課は書いていますが、関係課というところが、それぞれだけ関心を持ってもらえるかということも非常に大事なことです。単なる関係課で、他人事にならないように旗振りが必要だと思います。

例えば、95 ページにクラウドファンディングのことがありますが、広島県では、廃校をリノベーションするために寄附を募り、4,000 万円ちかく集めています。日本でトップクラスのお金を集めたと聞きました。やはり、かなり戦略を立てて取り組んだようです。プランも目標数値を立てていますが、関係課が他人事だと、思いもよらない結果になってしまうかもしれませんので、注意をしながら取り組んでいただきたいです。

(会長)

知恵を出せば、一つの施策で他の施策にも効果が生じる場合もありますので、幅広い着眼点を持ち、徳島市全体を良くしてもらいたいです。

(委員)

63 ページに「DMOの取組みの推進」が書かれています。DMOで成功している自治体はほとんどいないと言われているので、ぜひ徳島市で成功させてほしいです。

徳島市に住んでいて思うのが、「タダの文化」を無くして欲しいということです。

具体的には、モラエス展示場の入場料は無料ですが、お客さんはほとんど来てくれません。

人形浄瑠璃の場合、徳島県の阿波十郎兵衛屋敷は410円で、淡路島の淡路人形座は1,500円です。料金の高い淡路島の方が入場者数は多いのです。入場料が無料又は安いという理由で観光客が来るとは限りません。それは、徳島城博物館における「鐵華繚乱」と「活劇 刀剣乱舞」原画展でも証明されています。

入場料が高くても、企画や内容が良ければ、観光客は全国から訪れます。

モラエス展示場は、土・日・祭日限定の開設にするとか、何か工夫しないと駄目です。松江市の小泉八雲記念館を参考にされるとよいと思います。

次に、阿波おどり会館の1階入口のフロアについて、従来は、観光客の休憩及び待ち合わせ場所や憩いの場であった所が事務所に改造され、観光ボランティアガイドが2人常駐して観光案内をしている。近くの券売機横には女性の職員が配置されて、お客さま対応をしている。

職員とボランティアの重複配置はもったいないと思います。観光客の目線に

立ったサービスの改善が求められます。

(会長)

阿波おどりの時に、うちわにお金を払う人はいません。しかし、祇園祭で、無料でうちわや扇子をもらった人はいないと思います。こういった点にも注目する必要があります。

(委員)

財政を良くするには、収入を増やして支出を減らすということが根本にあると思います。支出については、いろいろ合理化して減らしているようですが、収入についても、企業誘致や新しい産業を起こすなど、取り組んでいただきたいと思います。25年前と比べると小学生の数は明らかに減っており、税収は減っていきます。人口減というのが一番の課題だと思いますので、徳島市は先に手を打っていて良かったと言えるようにしていただきたいです。

(委員)

現在、松山市の人口は約50万人ですが、それは合併が原因で、人口が増えました。今後、徳島市の人口を増やす方法の一つとして、合併についてはどのようにお考えでしょうか。

(事務局)

前市長時代には、中核市を目指しておりました。当然、近隣の市町村に合併の声もかけましたが、その時は、全くその気はないということでした。当時、中核市になるには、30万人の人口が要件でしたが、緩和され、20万人が要件となっております。そのため、中核市については今後も目指していくべきだと思っています。ただ、市町村合併につきましても、タイミングがありますので、こちらから強引に働きかけてというのは、今は厳しい状況です。ただ、委員さんからご意見いただいているとおり、人口は非常に大事です。人口問題研究所の推計では、2060年に、現在24市町村のうち17市町村が消滅危機にあるというショッキングな発表もありました。徳島市につきましても高齢化が進み、非常に厳しいところにいると思います。市町村合併というのも人口を増やす一つの手段だとは思いますが、合併だけでは厳しいものがありますので、今後徳島市が積極的に人口を増やす努力をしていかなければならないと思っています。

(委員)

いわゆる定住人口と観光客等の交流人口がよく言われますが、最近は関係人

口というのが言われるようになってきました。例えば、徳島市外からふるさと納税をする人や、徳島市に関心を持っている人のことです。たちまち、定住人口や交流人口を増やすのが難しいことから言いますと、いかに情報発信を行い徳島市に関心を持っている人を増やしていくかということが一つのステップになると思いますので、徳島市の魅力発信を十分に行っていただきたいです。それをステップにして、定住人口や交流人口につなげていってほしいです。

(委員)

観光に来て、宿泊したり、お土産を買ったりしたら、産業が良くなり、様々な相乗効果が出てきます。これだけやれば良いというものはないので、積極的にいろんなことをやって人口を増やしていく必要があります。今はまだ、田舎から徳島市に人口が流れており、そこまで人口が減っていないですが、そのうち、田舎から流れてくる人口がなくなると思います。そうした場合に、急激に人口が減ります。そのため、早めに手を打たないと大変なことになると思います。

(事務局)

自然増はなかなか見込めないという状況の中で、平成28年度に徳島市は社会増に転じましたが、やはり今後人口は減っていくとしますので、いかに減るスピードを遅くするかということが求められていると考えています。増やすのは、日本全国で難しいです。

(委員)

若い人が安心して結婚し、子育てができる環境を作らないといけないと思います。そのため、徳島市でも、非正規職員をなくして、安心して子育てができる環境を作ってほしいです。

(委員)

未婚の男女にアンケートを取ると、9割は結婚したいと思っています。ただ、今まで出会いがなかったという人がそのうち6割程います。徳島市でも婚活事業について考えていただきたいと思います。

また、遠藤市政になって2年ですが、過去の諸問題についての見直しについては、物議をかもしることがたくさんありますが、徳島市がこう変わったというところまではまだ見えてきません。やはり、市民参加で新しいことを皆でやっていってほしいです。

(委員)

徳島市のPR動画を見ましたが、よくできていました。しかし、市民の皆さんはどのくらい見ているのでしょうか。どこの方が見ているのか分析すると同時に、もっと市民にもPRしてほしいです。

(事務局)

来年度、マイシティ便利帳という市民向けの便利帳ができるのですが、その一つの案として、アプリで市政の情報を見られるようにする予定です。ICTを活用した情報提供にシフトし、市民の方にも情報発信していきたいと思えます。

(委員)

徳島市は、観光に関するキャッチコピーがあまり上手じゃない気がします。また、スマートフォンを見ない世代の人もたくさんいますので、幅広い市民が情報を受け取れるようにしていただきたいです。

(会長)

意見もだいぶ出てきましたが、最後に委員の皆さま方お一人ずつ徳島市の取組みを振り返って、あるいはこれからの取組みに対するご要望などいただけたらと思います。

(委員)

観光ボランティアガイドについてですが、会員数が四国の県庁所在都市と比べて、徳島市は非常に少ない。もう一度徳島市がイニシアティブを取ってガイド養成講座を実施して活性化を図るか、別組織を作るなどの対策が必要であると思えます。

最近の観光案内では、タブレットを使って、外国人と会話ができるようにしている自治体もある。

ボランティアガイドの組織に人材育成を任せるのではなく、徳島市が積極的に観光振興に努めていただきたい。

(委員)

LEDを使った事業をどんどん進めてほしいです。神戸のルミナリエは、人が多いし、何度行ってもすごいと思えます。徳島市はお城がないことを寂しいと思っていましたが、公園にルミナリエのようなものを作ってほしいです。

(委員)

徳島市は、歴史があり、それは他都市には絶対ないものです。市民がそこにもっと魅力を感じることができれば、市外からの注目も増えると思います。徳島市の魅力をいかに高めていくかが大きな課題だと思います。そうした中で、この計画があるわけですから、それぞれの職員が当事者意識を持って取り組んでいただきたいと思います。

(委員)

モラエスさんにもっとスポットを当ててほしいです。日本では知名度は低いですが、母国では非常に有名な人です。モラエス館の場所を皆さんが足を運びやすい場所にしてほしいです。

また、眉山の山頂が今とてもさみしいので、ロケーションを活かして文化的な施設を作っていただきたいです。

(委員)

様々な相乗効果で徳島市はよくなると思います。LEDは徳島発祥の産業ですし、眉山や公園で大々的にやるというのも良いと思います。観光客が来ると地域の産業も良くなります。

また、企業誘致についても積極的に取り組んでいただきたいです。

(委員)

遠藤市政が折り返し地点を超えて、できれば市民参加で徳島市の新しい取り組みを1つでいいからやっていくべき時期にきているのではないかと思います。

(会長)

私からは、3点申し上げたいと思います。

一つ目は、市民の協力と参加をどのようにして高めていくかが計画を実行するための鍵になるかだと思います。市民の役割と出番を作って、第一人称として、市民それぞれが生きがいとやりがいを持てる施策を行ってほしいです。市民をどう駆り立てるかが一つの課題です。

二つ目は、モチベーションということで、明るい展望も必要だと思います。職員数を減らすというのは、職員のモチベーションが下がる要因となります。そして、幾多の施策の未来には明るい展望が待っているということを皆が共通認識しなければ疲れてしまいます。皆が希望を持つことによって、継続的な努力ができると思います。

三つ目は、健康ということです。地球環境も健康でないといけませんし、行

財政も健康でなければなりません。最近企業では健康経営ということで、従業員の健康に配慮した企業が社会的に高く評価されています。非常に良いことだと思います。もう一つは、市民の健康ということで、皆が健康意識を持つことによって、介護費や医療費などの扶助費が大幅に減ってきます。あらゆる面で皆が健康意識を持つと、結果として市の財政にも寄与します。市の職員だけでなく、市民も企業も皆が一緒になって徳島市を良くしていく必要があると思います。

それでは事務局にお返しします。

3 閉会

(第一副市長)

本日は、貴重なご意見、ご提言ありがとうございました。

皆さまからいただきましたご意見は、市長に報告するとともに、今後の取組みに活かしていきたいと思えます。

委員の皆さまにおかれましては、3月末をもって任期が終了いたしますが、この4年間、数々の貴重なご意見、ご提言を頂きましたことに、厚くお礼申し上げます。

今後とも各分野におきまして、本市の取組みにご協力いただきますようお願い申し上げます。

委員の皆さま、どうもありがとうございました。

(事務局)

それでは、これをもちまして徳島市行財政力強化市民会議を終了いたします。

なお、徳島市行財政改革推進プラン2018につきましては、現在製本作業中ですので、出来上がり次第、お送りさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

委員の皆さま、どうもありがとうございました。